

コスタリカ内政・外交定期報告(2025年7月)

【ポイント】

内政

- ブルネル第一副大統領を含む7名の閣僚級の辞任

外交

- 米国政府によるアリアス国会議長及びルエダ憲法法廷判事の米国査証取り消し
- 米国下院議員3名の当国訪問

【本文】

内政

- ブルネル第一副大統領を含む7名の閣僚級の辞任

7月30日、チャベス大統領は、ブルネル第一副大統領を含む7名の閣僚級の辞任を公表した。辞任した7名は、ブルネル第一副大統領、ノギ・アコスタ財務大臣、マルタ・エスキベル国家計画経済大臣(MIDEPLAN)、アンヘラ・マタ住宅大臣、シンディー・ケサダ女性大臣、エスメラルダ・ブリトン社会保護庁長官(JPS)、フアン・マヌエル・ケサダ水道公社長官(AyA)であり、次期国会議員選挙に出馬する可能性が高い。(注:当国内法の規定により、公務員が国会議員選挙に出馬する場合、選挙日の半年前までに現職を辞任する必要がある。)

外交

- 米国政府によるアリアス国会議長及びルエダ憲法法廷判事の米国査証取り消し

7月9日、米国政府は、ロドリゴ・アリアス国会議長(国民解放党:PLN)及びパウエル・ルエダ憲法法廷判事のビザを取り消した。アリアス議長は、「同決定は、私にとって非常に不可解なものだ。私は、米国と生涯にわたって友好的かつ敬意ある関係を築いてきたため、この決定を正当化する客観的な理由を見出せない」と述べた。一方、チャベス大統領は、一部のメディアに対して、米国に入国できない国会議長と副議長がコスタリカにいることは非常に恥ずべきことだと述べた。「そのような国は、ベネズエラとキューバ、そしてその他同レベルのいくつかの国だけだと思う。なぜ彼らのビザが取り消されたのか、彼らに尋ねてみる必要がある」と発言した。

- 米国下院議員3名の当国訪問

7月30日、当地米国大使館はフェイスブックにて、「我々は今週、マリオ・ディアス＝バルアート議員率いる米国議会2政党による代表団を受け入れた。議員らはチャベス大統領や治安省との重要な会談を実施した。共同作戦センター及び物証検知統

合センター(CIIO)において、米国が地域安全保障のため、麻薬組織・犯罪組織と共に闘うことを堅く約束する証言者となった。また、国立博物館を訪問し、考古学遺産の違法取引を抑止するための我々の国際協力の具体的成果を確認した」と投稿した。同投稿に掲載された大統領府の写真には、アンドレ外相、トバール貿易大臣、ボガンテス科学技術通信大臣、ヒメネス治安省次官らの姿が写っている。